

済々黌高等学校 平成 26 年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>本黌建学の精神である三綱領 正倫理 明大義 (倫理を正しうし 大義を明らかにす) 重廉恥 振元氣 (廉恥を重んじ 元気を振るう) 磨知識 進文明 (知識を磨き 文明を進む)</p> <p>を根幹とし、生徒の輝く未来に向け、校長を中心とした指導体制のもと、節義を重んじ、人格や品性を高め、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。</p> <p>生徒を育成するに当たっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成 2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成 3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成 <p>を目指す。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会に貢献できる生徒（グローバル人材）の育成 (2) 生徒指導の充実 (3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底 (4) 学力の向上 (5) 進路指導の強化

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	学校全体で取り組む。	3	三綱領の精神に基づいた文武両道の教育により、部活動をはじめ多くの実績を上げた。今後も心身ともにバランスのとれた人材育成のため、学校全体で理念を共有し、教育にあたる。
	SGH事業の推進	グローバル人材の育成	SGH事業を軌道に乗せる。	企画委員会が立案し、学校全体で取り組む。	3	他指定校と比較し、一步先を行く取組が実践できた。今後も連続性を重視した内容となるよう計画的に取り組む。
	学校の活性化	学校行事の工夫・改善	前年度の反省を生かすとともに新たな内容を取り入れる。	毎週運営委員会を実施し、十分な審議を行う。	3	本校の課題について建設的な議論や意見交換を行うことができた。今後SGH事業の進展に合わせ、行事の精選を進めていく。
	職員の資質向上	校内研修の充実	各学期複数回の校内研修を実施する。	各々が立案し、学校全体で取り組む。	3	内容や進め方を工夫することにより、充実した研修を行うことができた。今後とも職員の資質向上に努めていく。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	危険箇所には迅速に対応する。	報告、連絡、相談を確実に行う。	3	体育館1F男女更衣室改修、管理棟西側網戸取付改修を行った。次年度の課題は体育館放送設備改修である。
	前年度重点課題の改善	グローバル化社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成のための言語活動を推進する。	・各学年で読書指導を推進する。 ・各教科で言語活動の充実に取り組む。	3	SGHのプロジェクトに参加の生徒は充実した言語活動を行うことができた。今後は他生徒への波及について検討する。

学 力 向 上	基礎学力 の充実	学習時間の確 保	平日2時間以上 の家庭学習時間 を確保させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間調査を学期に1回実施し、その結果を活用する。 ・学校全体で家庭学習時間の確保に取り組む。 	3	学年・教科の取り組みもあり、一定の家庭学習時間は確保したが、まだ不十分である。生徒への個別指導を通し、自発的な学習へと変化させていく必要がある。今後は教科担任との面談の機会を増やす。
	わかる授 業・考え る授業の 創造	教師の指導力 の向上	生徒の学習意欲 を高める指導を 実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業または公開授業を年4回実施する。 ・生徒による授業評価を年2回実施し、結果を改善に生かす。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・他教科の授業見学は増加したがまだ十分ではない。参加者を増やす工夫と環境作りを行っていく。 ・研究授業後の意見交換会で、新課程の指導方針の確認・改善と教材の精選が行われた。また、考査問題・大学入試問題等の検討を通じ、各学年目線を合わせた指導ができた。3年間の継続的指導につながるものと期待している。
キ ャ リ ア 教 育 (進 路 指 導)	生徒の進 路目標の 実現	生徒の進路意 識高揚に向け た取組の実践	講演会、出張講義 などの充実とと もに丁寧な個人 指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業別講演会、大学説明会、出張講義を実施する。 ・的確な進路情報の提供を継続的に行う。 ・面接指導を充実する。 	3	個々の行事は、十分な動機付けを行ったうえで実施し、主体的な活動を促すことが出来た。行事が続く時期もあり、精選・工夫が必要である。
		教師の教科指 導力の向上	難関大入試に対 応しうる教科指 導力をつけ、魅 力的な授業、課 外を 実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科全員で入試問題分析資料や校内模試問題を作成する。 ・外部で行われる研究会等に積極的に参加し、得た情報を職員間で共有する。 ・低学年での基礎学力の充実と家庭学習時間の確保に取り組む。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任間での指導に関する意見交換を綿密に行い、内容の精選や均質な指導を工夫することが出来た。 ・課題作りや定期考査の問題作成検討など日常の業務の中で教科指導法の目線合わせや継承ができるように努めたい。 ・外部研修会へ参加した先生には、学年会や教科会で復講していただき、情報を共有・活用することが出来た。 ・家庭学習時間については他の校務分掌や部活動顧問と連携し取り組んでいるが、十分とは言えない状況である。
		教師の進路指 導力の向上	3年間を見通し た進路指導の実 践力をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で進路についての職員研修を実施する。 ・各学年での学力検討会や進路検討会を実施する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・定例のものだけではなく、必要に応じて適時検討会や研修会を実施し成果を挙げた。 ・検討会や研修会については時間の確保が課題である。

生徒指導	済々鬢生としての矜持を持たせる指導	徳育の推進 ----- 基本的な生活習慣と自己規律の確立	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。 ----- 時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	・日々の生徒への声かけや講話、通信などを通して心の育成を図っていく。 ----- ・共通理解のもとに一貫した服装・頭髪指導を継続して行なう。 ・学校全体で登下校指導に取り組む。	3 ----- 3	様々な手法を用いて心の教育を実践してきた。声かけも毎朝行った。いじめ問題は皆無ではない。 ----- 毎月の生活目標を設定したので、共通認識のもと指導に当たることができた。登下校指導も全職員で行った。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守する指導を行うとともに防犯意識を高める取り組みを実施する。	・交通LHR・交通講話・実技講習会を実施する。 ・生徒交通委員会を中心に二重ロック定着のための活動を行う。	3	登校指導、三校合同登校指導、交通委員の通学状況観察、講話などを通して、生徒の安全意識は高まった。ただし、交通事故件数は昨年とほぼ変わらない。
	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組 ----- 価値的・態度的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫改善を行う。 ----- 生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	・学期毎に学年研修を実施する。 ----- ・個に応じた指導を充実させる。 ・生徒、保護者からの相談に誠意をもって対応する。 ・人権教育推進委員会を適時開催する。	3 ----- 3	人権教育のLHRは計画通り実施することができた。 ----- 教室における学習だけでなく、講演などを通して、生徒の心に訴えることができたのではないかと思う。
人命を大切にす心の育成	教材の精選と職員の共通理解	関連する教科・領域等の学習を組み合わせて単元を構成し、多様な指導を実施する。	・全学年とも成長段階に応じて計画的に指導を行う。 ・指導の振り返り（感想の集約）を随時行う。	3	昨年の計画を参考に、いじめ問題も絡めて、各教科・領域で取り組んでいただいた。	
いじめ防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめを、しない、させない、許さない姿勢を堅持させる指導を徹底する。	・4月にエンカウンターを実施する。 ・生徒会を中心とした啓発活動を推進する。 ・SNS情報教育講話を実施する。 ・いじめ防止委員会を年3回開催する。	3	・生徒会は標語作成、アンケート、集会での発表などいじめ問題に対して積極的に取り組んだ。 ・SNSの利用については、警察に依頼して講話を実施した。 ・いじめ防止委員会では活発な情報交換ができ、大変有益であった。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合、被害、加害双方の生徒に速やかに対応、指導を行う。	・いじめ人権アンケートを実施し、実態を把握する。 ・いじめ対策委員会を開設し問題解決に尽力する。 ・被害生徒、保護者に適切な報告を行い、加害生徒には事後も指導を継続する。	3	・学校でいじめと認知した事例は2件であった。いずれも迅速な対応によって、こじれることもなく解決している。関係生徒、学年には継続して指導が行われている。 ・アンケートでいじめを訴えた生徒に担任が早急に面談を行い、状況に応じてケアを行っている。

健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	生徒が自身の健康状態を把握し、健康で安全な生活を送れるよう指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便りを各学期1回発行し健康情報を提供する。 ・心と体の健康に関するアンケートを7月に実施し生徒の実態把握と生活指導に活かす。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便りを各学期2回発行し校内の健康情報を生徒や職員に発信した。 ・アンケート結果からストレス関連の課題に注目し、保健委員会による啓発と個別指導に活かした。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員による校内環境の整備を行う。 ・全職員による月1度の安全点検を行う。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員によるゴミ分別の呼びかけ活動の結果、ある程度の意識改革が見られた。 ・安全点検後の修理・改善の要望に対して、迅速な対応ができた。
図書館教育	読書習慣の確立	読書指導の推進	情報提供や時間の設定により、生徒の読書意欲を高め、読書の習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館便り」「麒麟児」「碧落」等を発行し、情報提供を行う。 ・「朝の読書」を行う。 ・生徒図書委員会を活性化させる。 ・読書週間やイベントを実施する。 	3	年度当初に計画した広報活動は図書委員会を中心に積極的に取り組むことが出来た。しかし朝読書週間を設けたものの、読書習慣の定着にはまだまだ至っていない。
	学習活動支援の充実	蔵書や設備の充実	蔵書や設備の充実を図り、貸出冊数を一人10冊以上に増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書目録を整備する。 ・LHRや授業における利用を促進させる。 	3	今年度も幅広い分野の図書を揃えることができ、一層の蔵書の充実を諮ることが出来た。
保護者との連携	同心会（PTA）と学校の積極的な連携・協力	連携を深め、円滑な校務運営を行うための情報提供	保護者への情報提供に努め、本校教育への理解と協力を得る。	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉メールを活用することで学校行事等の連絡を密にする。 ・HPの早めの更新と活用に努める。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを容易に発信できるよう改良できたが、担当者を増やすなど、運が円滑にできるよう工夫をする必要がある。 ・保護者へ一斉メールでの情報発信を増やし、学校の情報をより多く配信できた。
		PTA活動の活性化	同心会総会や学校行事等への参加者を増やし、総会（報告会を合わせて）の出席率を70%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・同心会総会時に、学校からの連絡・説明の時間を確保する。 ・総会欠席者に向けて、報告会を開く。 ・各種委員会の活動を活性化し、会員の参加を促す。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学級ごとの懇談会などは活発になったが、各種委員会の参加は限定的なので、幅広い保護者の参加を促したい。 ・総会は例年と変わらない参加者数であった。何らかの工夫を考えたい。

4 学校関係者評価

今年度も昨年同様、学校評議員（４人）と同心会（本校のPTA組織）会長に学校関係者評価をお願いした。そこで出された主な意見は次のとおりである。

自己評価について

- ・校長先生をはじめ諸先生が一丸となり、建学の精神である「三綱領」を根幹とした教育活動に日々熱意をもってかかわっておられることがひしひしと伝わってまいりました。とりわけ本年度は「国際的素養を備え、世界をリードする濟々多士の育成」として、濟々覺に眞のグローバル化の意識付けがなされるよう、SGH活動に積極的に取り組まれている姿勢を拝見することができました。初年度としては大変評価ができると思っております。
- ・自分の命を自分で守るという安全教育に関しては自転車のルールの再徹底などがなされており、課題意識を明確にし、全校で取り組んでおられると思います。基本的な生活習慣を常に見直しながら、健康な体と心づくりを今後も努めていただければと思います。
- ・基礎学力の低さが目立ちます。改善を希望します。
- ・先生達のすばらしい教育に感謝します。授業を見学しましたが、先生達の教え方がうまくなりました（10年前にくらべて）。
- ・本校の教育は校長先生を中心とした指導体制の中で文武両道の校風を大事にされ、一つ一つの教育活動を先生の頑張りで実行しておられると感じます。
- ・先生方の学校評価の中でおおむね、3.0以上でしたが、2.7の「基礎学力の充実」が少し気になる場所でした。
- ・全体的に高い評価で、貴校の取組と教職員の努力の成果が表れていると思います。学力向上の基礎学力の充実では、「自発的な学習へと変化させていく必要がある」と課題をだされていますが、今後予定される大学入試改革で求められる人材の育成を踏まえると、日々の授業の学習形態の改善も必要だと思われます。小・中の積み上げを生かし生徒の主体的な学習形態へとSGHの取組と関連させながら転換されていくと良いでしょう。
- ・徳を重視するという貴校の「社会に貢献する」生徒の育成をこれからも大切にされ、貴校が発展されることを祈念します。
- ・前年度と比較してみますと、横ばいか概ね改善の傾向であるようです。2年続けて下がっている学力向上の「基礎学力の充実」ですが、勉強時間の確保という課題は保護者も悩むところです。本人次第ですが、いかに自己啓発させるかというところでしょうか。
- ・SGHの取組は、もう少し高い評価でよいと思います。先日の発表会は素晴らしかったです。
- ・生徒指導は、実にしっかりされてると思います。下通りで濟々覺の生徒を見かけますが、制服を着崩してる生徒は、全く見かけません。ただ自転車は、危ない運転しないよう保護者も強く言わないと本当に危険です。
- ・同心会との連携ですが、ホームページもようやく形が整った程度で次年度の課題だと思います。一斉メールについては、タイムリーで非常に効果的な連絡手段ですね。

次年度への課題・改善への方向について

- ・今後は、大学、企業、海外との連携を一層強化していかれることとは思いますが、グローバル化としての高い志を持った濟々覺生が、コミュニケーションツールとしての英語を駆使し、世界に飛躍していかれることを期待しております。
- ・SGHの効果が、全生徒に行きわたる様に希望します。SGHの内容が一部の生徒だけに終わらない様に努力してください。
- ・SGH指定校として、「国際的素養を備え世界をリードする濟々多士の育成」という大きな課題を先生方、生徒ともに取り組み、大きな成果を出されることを期待します。
- ・PTA活動に関する保護者の参加意識ですが、皆さん、小中PTAで随分ご苦労されてます。高校になって少し解放されたい感もあるかと思われます。これは我々役員で、知恵をしぼって参加しなくなるような行事を考えていかねばと思います。

5 総合評価

各評価項目に対する評価結果はすべて3（おおむね達成できている）であった。小数第1位までで比較すると、最もポイントが高かったのは学校経営の「安全管理」、キャリア教育の「生徒の進路意識の高揚」、健康教育の「生徒の健康管理・傷病予防」で、いずれも3.4ポイントであった。また、逆に最もポイントが低かったのは、学力向上の「基礎学力の充実」の2.7ポイントであった。

全体的には、昨年度よりポイントが上昇したのが9項目、下降したのが5項目で、ポイントが上昇した項目が多かった。昨年度と比べ最もポイントが上昇したのが、学校経営の「職員の資質向上」及び「前年度重点課題の改善」で、ともに0.4ポイント上昇した。また、最もポイントが下降したのが学力向上の「基礎学力の充実」で、0.2ポイント下降した。

今年度新たに評価項目として加わったいじめの防止等の「いじめの未然防止」は3.2ポイント、「いじめへの迅速な対応」は3.3ポイントと比較的高い評価であり、適切な取組がなされたことを示した。

6 次年度への課題・改善方策

最もポイントが低かった学力向上の「基礎学力の充実」は、学習時間の確保を評価の観点としており、多くの職員が生徒の学習時間の確保が不十分だと感じていることを示している。本校では多くの生徒が、授業、課外、部活動と大変多忙な生活を送っている。学区の拡大等により遠距離通学の生徒も増え、疲れて授業中に居眠りをする生徒も見受けられる。については課外や部活動の練習時間について改めて職員全体で議論し、家庭学習時間の確保に努めたい。また、同時に予習を前提とした授業を徹底するよう学校全体で取り組みたい。

本校が今年度指定を受けたSGH事業については、その取組が外部からも高い評価を受けた。今年度は教育課程の変更ができず時間の確保に苦労したが、来年度よりSGコースとして新しい教育課程がスタートするので、今年度以上の充実した内容となるよう学校全体で取り組みたい。また、SGH事業で展開したアクティブ・ラーニングについては、職員全体でその手法を学び全生徒に還元できるようにし、新形態の大学入試にも対応できるようにしたい。